



## 令和元年度香寺高校美術作品集の発刊によせて

ここに、多くの皆さまのご支援とご協力を得て、香寺高校美術作品集を発刊する運びとなりました。

美術工芸部の作品は、令和元年度の全国総合文化祭佐賀大会に2名が絵画と立体造形で出品し、文化連盟賞を得ております。令和2年度高知県で開催予定の全国高等学校総合文化祭には1名が立体造形部門で推薦作品に選ばれるなど高い評価を得ております。これで、全国総合文化祭には21年連続出展という輝かしい成果を上げております。また、近畿高等学校総合文化祭や各種コンクールへも数多く出品や入選しています。

また、JR西日本「乗車マナー向上ポスター」で優秀賞・感謝状をいただくなど、多方面からの協力・依頼を受け、地域に大いに貢献しています。2年次生の修学旅行では、先日の火災で焼失した「首里城」の再建を祈願する「絵馬」を美術工芸部が作成し、沖縄美ら島財団首里城公園管理部と沖縄県庁文化観光スポーツ部にお届けしました。さらには、阪神・淡路大震災から25年を迎えるにあたり、HAT神戸において「ひょうご安全の日のつどい」が開催された際、震災の記憶を風化させないという思いを込め、美術工芸部が作成した「絵馬」を、「ひょうごボランティアプラザ」のブースにおいて、展示させていただきました。

この度発刊した美術作品集では、部員たちの精魂込めた絵画、デザイン、ポスター、工芸などの多岐にわたる作品を鑑賞していただきますようお願いいたします。作品を通して、皆さまに香寺高校生の若々しい感性や豊かな表現力を感じ取って評価をいただけたら幸いです。

本校は、平成9年に兵庫県で最初の総合学科高校として改編され23年目を迎えました。総合学科の教育の目標の一つに「生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体感させる学習を可能にすること」とあります。まさしく、美術工芸部の部活動はその教育目標を具現化しています。

最後になりましたが、今後とも香寺高校美術工芸部へのご支援のほど、よろしくお願ひします。

兵庫県立香寺高等学校 校長 河合 良成

本年度は記録的な暖冬で、まだ3月になったばかりだというのに、春たけなわの暖かな日差しが降り注いでいます。山の本々は芽吹き、田畑にも若草が芽吹き、周りの景色はエネルギーに満ちた「春」へと確実に進んでいることを感じさせます。

しかし、今、この高揚感のある「春」のエネルギーを世界の人々の心から奪ってしまった大きな出来事があります。新型コロナウイルスの蔓延です。変わることなど疑いもなかったあたりまえの日常が一変し、世界中の人々の暮らしが大きく変わってしまいました。

美術工芸部の日常も例外ではありません。この3月に、いつものように集大成の展覧会をするべく、生徒たちはずいぶん前から準備を進めてきました。そして最後の詰めに入ったところで、展覧会は中止となり、生徒たちの計画は断念せざるを得ない状況となってしまいました。

今年の生徒たちは、本当に作品作りが好きで、悩みながらも自分で解決しようと努力のできる生徒たちの集まりです。それぞれの心の中に豊かな発想の泉を持ち、こちらも驚くような、様々な発想豊かな作品を常に作り続けることができました。全力を傾け計画していた生徒たちにとって、展覧会ができない現実はなかなか受け入れがたいものでした。

しかし、まだ終わったわけではありません。この困難な状況の中でどう活路を見出すのか？新しい価値や発想こそが大切なことを学んだ美術工芸部の生徒だからこそ、この状況をどう打開していくのかを探っています。出口を完全にふさがれた迷路からどう活路を見出すのか？そのことを考え始めた生徒たちには、だんだんエネルギーが戻ってきているように感じます。もちろんまだ結論が出たわけではありませんが、突然の非日常に突き落とされたと感じている我々ですが、普段通りの「春」へと季節は確実に進んでいます。

美術工芸部 顧問 北川 正志

このパンフレットを手にとってくださりありがとうございます。

香寺高校の美術工芸部1年生は油絵制作、2年生は全国高等学校総合文化祭に出品するための作品づくり、3年生は自分たちの進路に向けて個々で活動を行っています。今年も美術工芸部員それぞれの作品がとても素晴らしいものになりました。

昨年に引き続き、2年生の兵庫県高等学校総合文化祭へ向けての作品制作では長い時間自らの作品と格闘し続けました。作品を作る上でお互い意見を出し合い、実力を高め合った結果、今年で21年連続全国高等学校総合文化祭に出品が決まりました。

また、地域貢献活動では校長先生から依頼された首里城再建祈願絵馬、阪神・淡路大震災復興祈願絵馬の作成や、JRの方から依頼された電車バナーの制作等、部員同士で協力しながら丁寧に制作し、期待以上の仕上がりを見せました。何を作るのにも制作者本人の気持ちが宿ります。

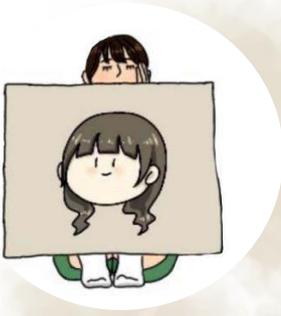
多感な私たちの成長を止めることは誰にもできません！

私たち高校生ならではの感性をパンフレットを通してぜひ感じてみてください。

今後も香寺高校美術工芸部の活動を応援していただけると嬉しいです。

令和2年3月

兵庫県立香寺高等学校 美術工芸部  
部長 総合学科22期生 島田 心

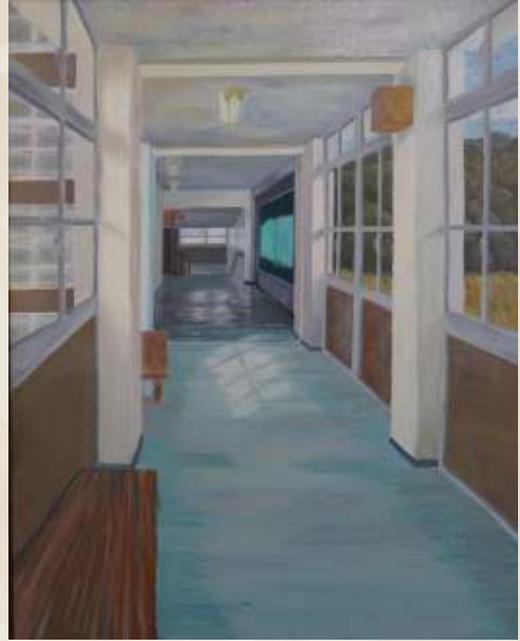


# 船本 佑香 (3年)

Funamoto Yuka



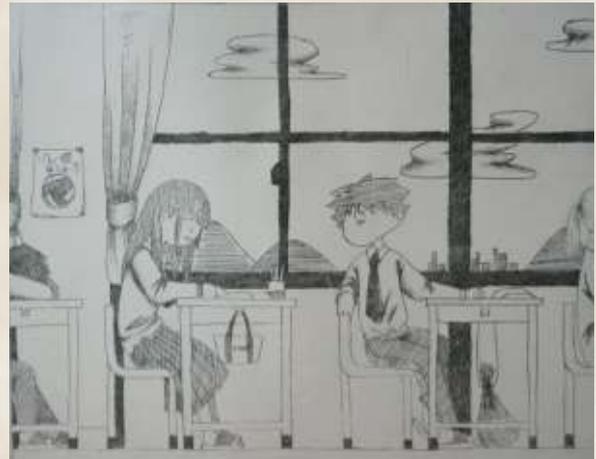
▲「ただ、まだ」 2018年制作



▲「Transcendence」 2017年制作



▲「未来を拓く 表紙絵」 2019年制作



▲「非日常」 2020年制作

私はこの高校生活3年間で様々な作品制作をしてきました。私を大きく変えた作品は1年次の時に制作したこうろ夢明まつりのポスターです。この作品で初めて登場させた「ニコちゃん」というキャラクターは、2年次に制作した彫刻作品「ただ、まだ」や3年次で制作した「イエローカード啓発ポスター」など沢山の作品に登場させ、今では私の代名詞となりました。



# 秋田 真波 (3年)

Akita Manami



▲「bother about」 2018年制作



▲「にんじん」 2020年制作

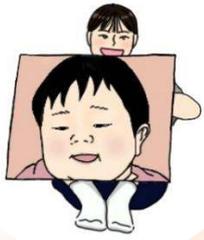


▲「偽ゴッホ」 2020年制作



▲「背中で語る」 2018年制作

この部活で過ごした三年間はとても充実した時間でした。一年の頃は、毎日部活時間が長くて、入部する部活を間違えたと思いました。でも、しんどいなかで楽しい事、嬉しい事が沢山あって、苦しい事も周りの支えがあって乗り越えられてきました。他の子たちのように放課後遊んで帰る事は出来なかったけど、他の子たちが出来ない経験を、この部活ですることが出来ました。美術の楽しさ、しんどさなどを教えてくださった、先生、先輩、後輩、ありがとうございました。そして、部活をめ——っちゃ楽しい時間にしてくれた三年の4人ありがとう！



# 石田 礼理 (3年)

Ishida Reiri



▲ 「love myself」 2018年制作



▲ 「未来」 2017年制作



▲ 「イワシの大群」 2020年制作



▲ 「大切な人」 2019年制作

入部してから感じてきた沢山の想いをたった200文字にする事はとても難しいです。3年間で私は技術的にも人間的にも大きく成長できたと感じています。しかしそれ以上に、沢山の感謝があります。私という1人の人間が、3年間の部活を終えることにどれだけの意味があり、どれだけの支えがあったか分かりません。私はこれから美術大学へ進学します。いつか、私も支えられる立場から、支える立場になるために、これからも自分と向き合い頑張っていきます。ありがとうございました。



# 安部 葵 (3年)

Abe Aoi



▲ 「私の見ている景色」 2018年制作



▲ 「姫路市場まつりポスター」  
2019年制作



▲ 「鬼」 2020年制作



▲ 「くろすけ看板制作」 2019年制作

この高校に入ってから3年間の思い出がほとんど部活のことになるくらい、とても濃い部活動でした。私は好きなイラストが描けるなら、という軽い気持ちで美術工芸部に入部しました。軽い気持ちで入ったことを後悔するくらい辛く苦しい時もありましたが、周りの皆に支えられたり、一緒に笑いあったりして3年間乗り越えることが出来ました。この3年間のことは一生忘れないです。私が不安定になっても支えてくれてありがとう。



# 田頭 樹 (3年)

Tagashira Itsuki



▲「秘密基地」 2018年制作



▲「自画像」 2019年制作



▲「未来を拓く 表紙絵」 2019年制作



▲「香寺高等学校要覧 表紙絵」 2019年制作

私は昔から、絵を描いたり物を作ったりするのが好きで、中学の頃も美術部に入っていました。なので、高校でも美術工芸部に入るとずっと決めていて美術工芸部に入りました。しかし、想像以上に忙しく、また周りの人皆絵が上手いので、挫折しそうになりましたが、なんやかんや楽しく三年間やり遂げることができたのではないかと思います。特に私は油彩が好きなので大学でも油彩を続けていきたいです。



# 島田 心 (2年)

Shimada Kokoro

私の総文ライフ(兵庫県高等学校総合文化祭作品制作期間のことです)は気分と勢いだけのものでした。初めてあんなに大きい立体作品を作ったので、とてもわくわくしていました。でも作ってみると上手くいかなかったり、ケガをしたりで半年も制作していれば嫌になった時期もたくさんありました。それでも積み重ねてきた努力と、やる気でやっと完成しました。今回の総文のように新しいことにチャレンジしていった自分の可能性を広げていきたいです。



▲「夜逃げ」 2019年制作

# 塚原 桜 (2年)

Tsukahara Sakura



▲「再生と本質」 2019年制作

私はこの一年兵庫県高等学校総合文化祭に出品する作品制作を通して大きく成長していきました。油絵を描いていく中で自分のデッサン力が上がっただけでなく、作品にプライドを持つことや最後までやり通すことの大変さを学びました。結果的に来年度の近畿高等学校総合文化祭に出品することが決まりました。また、私は半年間、油絵を描いたため他の事にも挑戦しようと思い、アクリル絵具に挑戦しました。油絵とは違ってとても新鮮で楽しかったです。これからは絵という枠を超えて映像や写真の分野にも挑戦していきたいです。



# 奥見 亜依 (2年)

Okumi Ai

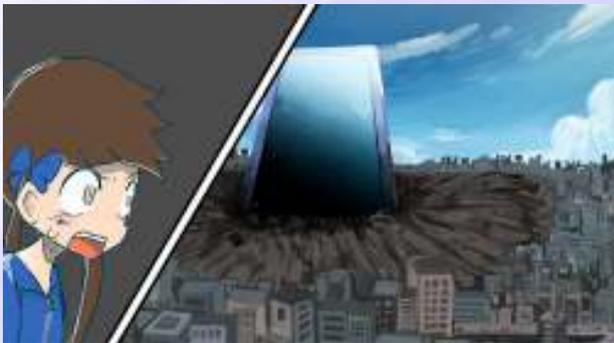
この1年で一番の思い出はやっぱり兵庫県高等学校総合文化祭です。先輩たちから「総文はキツイ」と聞いていたので覚悟はしていましたが、実際にしてみると想像しているよりもキツかったです。私は4人の中で一番決まるのが遅く、皆よりも約1か月遅れて取り掛かることになりました。はじめは、全然形が上手くいかず苦労しましたが、1つ1つ完成していくのを見ると達成感がありました。総文でのことを活かして、これからも日々努力していきたいです。



◀「日々」 2019年制作

# 仲田 悠介 (2年)

Nakata Yusuke



▲「カメラ付き」 2019年制作

私は今回、アニメーション作品を作りました。制作に置いてまだマイナージャンルなので分からない事は自分で調べ解決しなければいけなく大変でした。色使いやキャラの動く様子、演出に拘ることが出来ました。初の本格的な映像作品としてはかなり満足のいく出来になりました。また「何してるの大賞」では、躍動感とカラフルな色彩を主にして描きました。結果きぬや賞を得ることが出来ました。充実した制作活動が出来ました。